

3月11日（火）22時NHKスペシャル 大崎要一郎科学・文化部デスク

「約束はどこへ 原発事故14年 さまよう除染土」への疑問

福島原発事故14年の3月11日NHK総合テレビで上記の放送があった。正しい世論を広めるべき公共放送で重要な誤りがあったと考え、以下に問題点を指摘する。

疑問の第1は、放送中住民の声の中にわずかに言及があったが、それ以外は除染土を全国に拡散することについての正当性について一言も疑問を提起せず、約束だから、全国・県外が引き受けるべきであるとした報道姿勢に対する疑問である。大崎デスクは公害問題の原則をご存じないのであろうか。

第2は政府のAIのために電力需要が増えるという根拠の弱い理由を鵜呑みにして、原発の必要性を無批判に報道したことである。

第3にジャック・ロッシャール氏によるエースの宣伝をそのまま無批判に放送した。

1. 汚染物、放射性廃棄物処理の原則の無視

除染土といつても1kgあたり800Bqまで放射性物質を含む除染土である。これを福島県外で引き取らないことが約束違反で国民全体に責任があるかのような報道であった。IAEAの基準でも本来自由に廃棄してよい放射性廃棄物の濃度は100Bq/kg以下であった。それが80倍も緩和されたことの批判もなかった。そもそも、放射性物質など危険な汚染物、廃棄物は集中して管理し、外部に拡散させないことが国際的にも確認された原則である。その基本原則に一言も触れず、汚染土を引き取らない国民を無責任な人間のように扱う誤った報道であった。汚染水も同様である。

県外に搬出し、再利用するということがそもそも間違いなのである。そのことにNHKは言及しなかった¹⁾。

2. データセンター・AIの拡大で大量の電力が必要であるとのデマ宣伝に協力した。

環境・エネルギー問題に詳しい明日香壽川氏は次のように述べている。

「国際エネルギー機関（IEA）の電力需給予測に関する最新の報告書は、2022年から2026年にかけて、世界全体でデータセンター、AI、仮想通貨の分野における電力需要量は25%～200%増加するという幅広い予測をしている。さらに、世界全体の電力増加の要因は他にもあり、その中でデータセンターは増加要因としては相対的に小さい」のが事実である。

3. 2013年ころすでにコリン・コバヤシ氏などによって批判された、放射線汚染地への帰還を進めるエースの宣伝を、今日繰り返して放映した。まさにチェルノブイリで活躍した中心人物ジャック・ロッシャール氏を登場させ、「避難するか、しないかは自分で決めるべきだ」と宣言した。これはエースの住民を永住させるための決まり文句である。科学者なら、

また、住民の健康を心配する報道機関なら、汚染地に留まることの危険性を説明し、避難のための援助をすべきなのである。要するに、汚染地で暮らすことによる影響がどんなものかは、言わない（明かさない）そのリスクも警告しないし、予防原則も適用しない。ただ、そこに留まる人の生活改善をする、ということなのであった。すると最終的には、ここに留まることを住民に強制することなく、不可避にさせているのである。このロシャール氏の問答はまさに「落とし穴」である。

「自分で決めていい」、自分で決定すれば自己責任である。生活の保障、経済的な保障、仕事の保障がなければとどまらざるを得ない。まさに汚染地への落とし穴である。

参考文献

1. 熊本一規、辻 芳徳著、『がれき処理・除染はこれでよいのか』緑風出版、2012年
2. 明日香壽川、『データセンター・AIの拡大によって電力需要量および二酸化炭素排出量が急増するために原子力発電が必要であるという言説の問題点』日本の科学者、2025年、3月号
3. コリン・コバヤシ著、『国際原子力ロビーの犯罪』、以文社、2013年